

別記様式（第3条関係）

開催記録

名 称	第2回会津美里町総合計画審議会
開催日時	令和元年8月30日（金） 午前10時00分から午前11時40分まで
開催場所	本庁舎 203会議室
出席者	委員別紙名簿のとおり（欠席委員1名 星賢一委員） 事務局 政策財政課小川良典参事、金子吉弘課長補佐、政策企画係川田浩泰係長、大竹克昌 株式会社ケー・シー・エス 石田、室谷
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3次総合計画に関する町民アンケート結果分析について ・ 第3次総合計画前期基本計画の検証等について ・ 町民ワークショップの開催概要について ・ 第3次総合計画後期基本計画のレイアウトについて ・ 今後の総合計画審議会のスケジュールについて
資料の名称	・ 第2回会津美里町総合計画審議会 会議資料一式
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
内容	
<p>1 開 会（省略）</p> <p>2 会長挨拶（省略）</p> <p>3 議 題（座長：石光真氏）</p> <p>（1）第3次総合計画に関する町民アンケート結果分析について</p> <p>【説明者：株式会社ケー・シー・エス】</p> <p>説明者より、会議資料に基づき説明。</p> <p>（会長）只今、事務局から説明がありました。ご質問等はありませんか。</p> <p>（委員）検証するのに、指標とアンケートの2つしか使っていないことに私は物足りないと思っています。例えば、主要な施策を満足するために必要な主要な事業というのは、分野ごとに最低でも3つとか4つとかある訳ですよ。そういうものを出してどのくらい掛かったのか、どのくらい満足があるのかを分析しないと、中々分からないのではないかと。それから、ここにも書いてありますが、国の補助金や県の補助金が入ってますから、単に事業費だけでは意味がないんです。単独事業費を用いているなら分かりますけれども、これではあまり意味がない</p>	

のではないかと思います。それから、施策に定める成果指標なんですが、毎年度、施策の主管課が検証はしていると思います。だけど、指標が下がった。あるいは、これを見ると高齢者福祉の不満が非常に高まっている。目標値と実績値が離れている。その理由がなんだということの検証の中に明記されていなければ、単に数字だけやるということは私でもできるんですよ。それが、担当課がやるべき仕事ではないのか。例えば、令和2年度の予算要求の中で、これは使っているけれども町民の満足度には繋がっていないということで、予算の使い方を変えてみようとか、そういうようにするためには検証の中身を変えていかないと、これではちょっとどうかと思います。会津美里町の場合は政策分類が非常に少ないんですね。普通は20とかあります。平均点といっても、それは全ての事業の平均点なんですよ。本来は、分野ごとの目標値に対して今年度はどの程度達成しているのかという細かい分析をしていかないと、あまりにも大雑把過ぎると思います。町の検証を3年過ぎてどのようになっているのかなと、すごく物足りなさを感じました。

(会長) 一つはアンケートと費用の効果分析とかをどうやるのか。もう一つは、KPIのように細かい施策に基づく分析でなく、大雑把過ぎるという点ですかね。

(事務局) アンケート調査においても細かい事業の満足度を把握して分析しなければ分からないのではないかとということですが、町民アンケートは、総合計画の進捗管理として実施していることもあり、細かい事業ごとの意見の全てをアンケートでは聞き切れないので、施策の満足度を図れるような内容で聞いているということご理解ください。検証では、町独自に実施しております行政評価において各種事務事業について、目標を掲げ、その取り組みと成果を検証して公表しております。その行政評価結果も前期計画の3年分のデータがありますので、そのデータを事業者提供し、数字だけではなく、課題や達成状況を踏まえた分析を進めているところであります。事業費を用いた分析がありますが、委員の皆様にも少しでも分かりやすい分析をお示ししたいと考えたものでありまして、町民の満足度がどのような状況なのかをご理解いただくために作成したものでありますので、その点、ご理解いただきたいと思えます。その他、分野ごとに検証する必要があるのではないかとこの点につきましても、行政評価の中で事務事業の他に23施策の成果指標の達成状況や課題の取り組み、今後の方向性などについて施策評価結果として3年間公表させていただいておりますので、その行政評価結果分析を含め、第3回会議でお示しさせていただきます。

(事業者) 町で調査してきたアンケート調査を基に、今後の後期基本計画の政策立案のために違う分析ができないかと考え、今回の分析を行いました。通常であれば満足度がどの程度達成しているかではありますが、それを事業費との関係性を分析して見えるものがあるものとして分析しております。最終到達点は、満足度と重要度という分析を可能な限り分析したいと考えておりますが、重要

度のデータは町にはありませんので、後ほどご説明させていただきます町民ワークショップの中で把握できる方法を考えて、最終的には、満足度と重要度の関係を導き出し、町民の意見として総合計画に反映できるような分析を提供していきたいと考えております。

(会長) 私からも意見を申し上げます。アンケートは満足度を大雑把に聞くものですが、今回のアンケート項目の中で高齢者福祉の所ですが、老後の生活に不安はありませんかという点ですが、先ほどご指摘がありましたように質問があまりにも普通すぎるというか、プラスマイナスでしか聞いていないという点です。もう一つは、会津美里町の高齢者福祉政策に対する評価を聞いている質問ではないんですね。貴方は老後不安ですかというと年々不安は増えているということであって、これは、満足度を聞いているのではなくて重要度を聞いているんですね。ここで見ることはできるのは高齢者福祉は重要だと、高齢者は年々不安が高まっているので重要であるということは分かりますが、それに対して町が取り組んでいることの評価になっていないということです。これは違う質問が混入しているということです。これを基に平均を取られても困るかなと思います。どうして比較できないかということと全然違う視点で聞いているということです。満足度の低いものは、しっかり段階がついて、しかも満足ですかと聞いていて、かつ、低い数字が出ている。高齢者福祉についても同じような聞き方をすべきである。そうであれば、比較することもできて、行政効率と同じように低い数字がでるのかもしれませんが、いや不安だけれども町が良くなっているという数字が出るかもしれませんので、この日常生活での不安を感じているかの質問だけは重要度を聞いているので、それは混入しないように整理する必要があります。もう一つは、予算がどれだけ掛かったかという大きな項目ですが、委員からのご意見にありましたように補助金とかも含まれるから町単独でどれだけ掛かったを出そうとすると大変なので、掛かった事業費だけでも前進だと思いますが、私の無い物ねだりになりますが、これを見るとお金がとっても掛かっているものは、町がお金を出していますけれども国からもお金が出ていると思います。高齢者とか健康に関する施策は、町の政策で決めるものではあまりない。だいたい国の政策が決まっていて、そのとおりやらなくてはいけない。お金も出してもらうけどそれに倣って町もお金を出している。その上で、町が独自に細かい所でやっている所はどうですかということを知るのは無理なんですけどね。大雑把なアンケートでは、本当はそう聞かないと町の評価は分からない。

(会長)他にありますか。

(委員)傾向で質問です。全体的に年々満足度が上がっている設問が多いと思いますが、いくつか、平成30年度で下がって平成31年度に回復している設問が散見されたので、その理由を把握していれば教えてください。

(事務局)実際、アンケートは町民の20歳以上の方から無作為で1,000人抽出し、回答

をまとめたものになりますので、毎年、対象者が異なっていることはご理解ください。そのため町では、その3年間、対象者も回答者も異なりますので、意見を人ごとに把握することはできかねます。よって、詳細の傾向は把握できておりませんが、事務局としましては、町民の満足度を上げるため、町の将来像実現のために各種施策や人口減少対策などの事業に取り組んでおりますので、その成果が表れて右肩上がりの傾向になっておりますので、成果が少しずつではありますが上がってきているものと捉えております。

(会長) 上がっていることはいいことだと思います。もうちょっと細かく見ていかないと分からない。一旦下がったものがV字回復しているから嬉しいことですが、去年の施策が良かったと推測されますが、検証はできていないということですね。

(事務局) 例えば防災関係であります。去年の災害に関する報道がテレビで放送された時にこのアンケート調査を実施すると、その不安や防災に対する意識の高揚が影響して数値が悪くなるという担当課の分析もありますので、そういうことも一つ考えられます。

(会長) 他にありますか。

(委員) 私がさっき言っているのと同じなんです。今のはプラスの部分で言っている。逆にマイナスの場合はなぜ急に下がっていったのか。単なる数字だけ出しては検証にならないです。主管課がそれを汲み取って来年の目標数値に達すべく理由を列記していかないと。だから、先の委員のようにプラスに転じた場合でもそれが分からない。我々には伝わらないです。これしかないんだもん。ですから、その辺は最低必要なんじゃないのかな。それから、どこで話していいか分かりませんが、この成果指標の基準値の考えとか指標そのものがどうなんだということを、もう3年過ぎている中で各課は検討しないんですかね。例えば、ちょっと分かりやすい例で言いますと、今年、高齢者の事故が非常に多いです。そうすると交通安全の運転免許証の自主返納者数というのは、ここの目標数値よりも私は上げてもいいのではないのかなと思います。そういう社会状況が変わった場合には上げていく。あるいは、どう考えてもおかしいぞという成果指標をわざわざ3年過ぎて残り来年度まで無駄な成果指標を5年間続けるということは馬鹿げた話であって、それを考えるのは行政の皆さん方だと思うんですよ。そこをきちっとしないと単なる我々が集まって審議会を開催して答申を出す形になっては意味がないと思います。ぜひ、気をつけてやってほしいなと思います。

(会長) 成果指標の見直しが必要ではないかということですね。

(事務局) はい。委員ご指摘のように、成果指標につきましては前期基本計画で定めた指標で成果を諮っておりますので、現在の社会情勢とかを反映できていない指標もありますが、成果指標は施策の達成度合いを推し量る指標が複数ある中から選定しているものでありますので、前期基本計画期間中はその成果指標で成

果を諮っていく考えであります。後期基本計画における成果指標につきましては、次回、第3回会議の中で計画骨子案の中でお示ししたいと考えております。当然、成果指標の選定につきましては、内部協議を経た上でお示しいたします。その上で、委員の皆様も含め町民が見ても分かりやすい指標、定量的に取れる指標などについての意見についてもお伺いし、後期基本計画では、施策の成果を押し量りやすい指標にしていきたいと考えております。

(会長) アンケート結果についての意見はありますか。私は、アンケートだけを見ても、高齢者福祉は別ですけれども、行政効率等の点数が悪いというのは少なくともイメージ的には私的な評価を町民から受けている訳ですから、それは気付くのかなと思います。それはなぜかという分析は個別の点検とか見ていく必要があるのかなと思います。明らかに低いのは、効率的な行政運営の所は分かりやすく低いですね。

(事務局) 成果指標の分析ですが、町では、昨年度設置した町の経営層で構成する経営戦略会議において、成果指標の分析については、経営層が分析内容を共通認識とし、今後の政策に繋げるための協議を行っております。23 施策の成果指標に対して主管課が分析した内容に対して、経営層がその分析が妥当であるかも含め検証したものを8月16日に町ホームページで公表しておりますので、改めて、情報提供させていただきます。その分析結果を踏まえ、第3回では、分析に対する課題や対策などを整理して決めていく考えであります。

(会長) 次回の会議前に資料をお送りいただくということです。

(会長) 他にありますか。

(委員) アンケートに関してですが、例えば、会津美里町に住みやすい町だと思うかという場合に、こういった理由で住みやすいのか、こういった理由で住みにくいのかという分析はしているのでしょうか。会議を進める上でも、こういった理由が出てくると話が進みやすいのではないのでしょうか。

(事務局) アンケートにつきましては、その理由を聞いている設問と聞いていない設問があります。先にもご説明させていただきましたように、町民アンケートで把握できていない重要度を含め、9月に開催する町民ワークショップを活用して町民意見を把握していきたいと考えております。現状としましては、住みよい町だと思うかの理由は把握できていない状況にあります。

(委員) 数字だけでは分からないので、そういう形でお願いします。

(事務局) はい。今回は、前期基本計画期間の検証作業の中で、現在、町で保有する町民アンケート結果データによる分析したものをお示しさせていただきましたので、数字での分析結果となっております。第3回では、今回お示した分析内容に加え、後期基本計画の骨子案をお示しさせていただいて議論できるようにしたいと考えております。

(会長) 分かりました。アンケート自体は限界がありますので、それ以上のことは後の議題にもありますように町民ワークショップのフェイストゥーフェイスの中で

実際どういうことを聞いていかないと、アンケートだけでは足りないということが分かります。傾向は分かりますが、なぜかということがあまり分からない。

(委員) 多分、設問数が多いと町民の方に嫌がられるので細かくしていないのかと思いますけど、他の市町村で見ると、分野ごとに分けているんですね。全部質問するのではなくて、例えば、政策のここまでは何百人とかですね。全部聞こうとするから非常に細かい聞きたい所が聞けなくなるというのであれば、分けて聞いてもいいんじゃないのかなと思います。その辺は、工夫してもらえると良いのかと思います。

(会長) 重要度を聞くことはアンケートでもできると思います。重要度や関心度を聞く。そして、満足度を聞く。そこはアンケート項目が多くなりますが、町民アンケートはワークショップよりもサンプルが多いですから、その中での改善項目は、今出た意見に関してはあるかなと思います。ただ、今までアンケートはほぼ同じ内容でしたよね。前回の総合計画を決める時もアンケートを参考にして、私はすごく参考になった記憶がありますので、それは結局、満足度の高いという所で判断したということでしょうね。その中で、福祉とか健康とかはやっているんだよね。今後も大事だよという判断をしたんですけど、今日、議論であったように精査していくことでいうと、重要度と満足度の違いという形でアンケートの改善はしていく必要があるのかなと思います。アンケートの問題点も前回では見えてこなかった箇所が見えてきました。

(会長) 他にご質問等はございませんか。

(委員) なし。

(会長) それでは、次の議題に入ります。

(2) 第3次総合計画後期基本計画の検証等について

【説明者：株式会社ケー・シー・エス】

説明者より、会議資料に基づき説明。

(会長) 只今、事務局から説明がありました。ご質問等はございませんか。

(委員) 一般の方が見て分かりやすいように、例えば、平成28年度で達成の数がこの位あったらこの位とかね、平成29年度はこの位あった、平成30年度はこの位あった。確かに数字を拾っていけば分かる話なんですけどね。一般の人が見て、すぐ分かりやすいような形で達成率がこの位になっているんだなと。平成28年度は、平成29年度は、平成30年度はという形でやれば、なおさら分かりやすいのかなと思います。次回という話しがありましたが、先ほど事務局からあったように多様な交流と連携の推進の が追加指標になっています。私、今考えたんですけど、この目標値がマイナス121で推移しています。このやり方はまずいのではないかと思います。人口が一定ならばこれでもいいと思います。人口が減ってきてほとんどこの数値が変わらないということは、逆を言えば悪い

目標数値になっている可能性が非常にある訳です。本当は、社会動態のパーセント、いわゆるマイナス8パーセントであったのが、最終年度の目標はマイナス4パーセントまでもって行きますよという形の方が本来のあるべき姿なのかなと。そうでないと、これがおかしいといわれてもおかしくないです。

(事務局) 委員ご指摘のように成果指標の目標設定につきましては、当初の段階で設定させていただいておりますので、現時点では、減少の抑制に向けて成果を上げていくことになるかと思えます。ご指摘の点についても十分理解いたしますし、人口が減少していくことを予想している状況であれば、委員ご指摘のとおりと受け止めております。ここは、後期基本計画の成果指標の設定では、そのようなご指摘を踏まえて設定する必要があると考えております。参考とさせていただきます。

(会長) 見れば分かりますが、分かりにくい。人口は減っていきませんが、マイナス121人に対して減り方が減っているということはいいことなんです。例えば、棒グラフで比較することで誰が見ても分かりやすいと思います。例えば、効率的な行政運営の所の職員が町民の立場に立った対応を考えている町民の割合というものが、もともとの基準値が50.5パーセントなんです。半分の人が満足している、半分の人が満足していないという厳しいのかどうか分からない結果が出ている。それに対して、令和2年度までにこれを58パーセントまでに上げていきたいと思いますという、割と現実的といいますか謙虚といいますか、100パーセントにしようといきなりいっているのではなくて、目標に対して99.8パーセントですよという以上でも以下でもないんですけどね。それに関しましては、実績値が一旦下がって上がっている所で100パーセントになったから100パーセントの町民が満足しているのではないということの誤解は質しておく必要があると思います。この成果指標の達成状況1枚で表すとすれば仕方ないのかもしれませんが、それぞれ示す時は、50パーセントの棒グラフが下がっている、目標値がここですよというように表すと分かりますよね。これもホームページで町民に公開している場合、見て考えられるといわれればそれまでですが、より分かりやすくしていた方がいいと思います。資料は、200パーセントを基準にしていますから100パーセントでも真ん中位になっていますから少ないのかなと誤解してしまいましたけれども、1枚で収めるから数字見て考えてくださいということにもなってしまいますが、最後のご指摘もそうなんです。目標というものと、人口が減っているというものと、満足者が5割台しかいないという現実に基づいた目標の達成値というものであるということ。もう一つは、それで実績値が上がっていい成果が出ていることもあるし、悪い成果が出ていることもあるということで、そこは注意しなければなりません。

(会長) 他に意見等はありませんか。

(会長) 人口目標のマイナス121人というのは、マイナスに予想してどうするんだといわれるかもしれませんが、私は、これはこれでいいと思っています。会津若松

はある時以降、横ばいに行こうという方針を立てていますが、近隣市町村が集中していますからね。ですから、悲しい目標かもしれませんが、減る傾向にあるがそれをどう阻止していくかという会津美里町の方針というのは、しかも成果も上がっていますので、それはそれでいいと思います。

(会長) 他にご質問等はありませんか。

(委員) なし。

(会長) それでは、次の議題に入ります。

(3) 町民ワークショップの開催概要について

【説明者：株式会社ケー・シー・エス】

説明者より、会議資料に基づき説明。

(会長) 只今の事務局から説明がありました。ご質問等はありませんか。

(会長) 積極的にご参加いただいて、個別政策とか固有名詞とか出てくる具体的な提案とか問題点とか、役場では考えられない意見とか有意義なものにしていただきたいと思います。

(会長) ご質問等はありませんか。

(委員) なし。

(会長) それでは、次の議題に入ります。

(4) 第3次総合計画後期基本計画のレイアウトについて

【説明者：政策財政課政策企画係大竹克昌】

説明者より、会議資料に基づき説明。

(会長) 只今の事務局から説明がありました。ご質問等はありませんか。

(委員) レイアウトそのものはいいいと思います。度々、同じことをいって恐縮なんですけど、これで自然・環境の保全で目標値が出ています。先ほども申しあげましたことと同じで、一般廃棄物の量を年度別に目標値に出していますけれども、これは人口が変わらなかつたらこのとおりでいいんです。人口が減っていったらどうなんだということは、本来、1人当たりのごみの排出量が本来大事なのではないのかと、町が求めるものは、そういうように書かないと、減っているのか増えているのかが分からない。逆を言うと、これが1点でこれは先ほどの追加の部分の発想と同じです。課題の部分で書いてあることはいいいんですが、3つ目のごみ減量に対する意識改革とさらなる資源ごみ回収・分別収集の徹底というように書いてあります。言っていることは正しいんですけども、10年前から言ってきて減らないんですよ。この文言を書いても減らないということは、この文言をまた書いたって大した意味がないんです。これをやってきて意味がないのであれば、文言は違うように書いていかないと単なる紙ベースで書いたことで終わってしまうので、そこが皆さん方の知恵の絞り所ではないのかなと思います。レイアウトそのものはいいいと思います。

(事務局) 貴重なご意見ありがとうございます。今回お示ししたレイアウト案は、前期基本計画のものを仮に記載させてお示しさせていただきましたので、ご理解ください。成果指標の考え方、さらには課題等の内容につきましては、委員の意見を参考にさせていただき、また、仰るとおりだと思います。現在、行政評価結果につきましては、町の経営層で構成する経営戦略会議におきまして協議しておりますので、実際に効果・成果が出る取り組みを記載していく考えであります。

(会長) 記載例についてご指摘が出ましたけれども、廃棄物の量とか、1人1日940グラムという形でないと1人ひとり努力しにくい。全体で何トンといわれても。全体の数字を書くことも大事なんですけれども、括弧で1人1日いくらと書く見えやすいと思います。なぜ、達成できないかといわれると難しいんですけどね、震災があると増えたり、観光客が増えると増えたりと色々な要因があるので、そこは、基本は庁内でやっていただくしかないんですけれども、書き方なども含め見直しの必要があるのかと。人口が減るから確かに減ってしまいますから、それで喜んでいいとはいけないというご指摘をいただきました。

(会長) 他にご質問等はございませんか。

(委員) なし。

(会長) それでは、次の議題に入ります。

(5) 今後の総合計画審議会のスケジュールについて

【説明者：政策財政課政策企画係大竹克昌】

説明者より、会議資料に基づき説明。

(会長) 只今の事務局から説明がありました。ご質問等はございませんか。

(会長) 第3回で骨子案が確定する訳ですが、1回で細かい所全てと言う訳にはいきませんので、前もって送っていただく行政評価結果に対して皆さんご見識がありますので、一旦郵送でもいいので事務局に提出していただいて、その場で全部出して全員で議論するとあまりにも膨大ですからそういう訳にもいかないと思いますので、しかし、それをやらないと中身がないですから、そういうプロセスを踏んで事前の準備という形で中身もある程度吸い上げていかないと、1回の会議で全政策の見直しは終わらないですから、そのプロセスを入れていただきたいと思います。

(事務局) 承知いたしました。

(会長) 他にご質問等はございませんか。

(委員) なし。

(会長) それでは、本日の議題は以上となります。

4 その他

(事務局) 委員の皆様から、その他について何かありますでしょうか。

(委員) RESAS は、職員の方が取り組まれているのでしょうか。

(事務局) 資料 2 に記載している RESAS を活用した現状分析と施策立案ですが、産業構造や人口動態などの統計等のビックデータを集約した分析システムで、今年度、東北経済産業省の事業に取り組んでおります。現在、庁内で分析を行い、課題や問題、強みや弱みを見出した上で施策立案に繋げていくものです。その内容を総合戦略に、さらには後期基本計画にも反映できるものがあれば盛り込んでいく考えであります。

(委員) わかりました。昨日、実際に見てみると、会津美里町って意外と数値が分からないという部分が結構多くて、市だとある程度の規模の会社があったりするので色々なマップの部分ができるんですが、その辺は大丈夫なのかなと危惧した部分があるんです。それから、産業別マップを作るにしても、商工業の振興では製造品出荷額ということで全国的に共通な数字ですけれども、農業総収入というと農業の収入とプラスアルファの部分が入るんですね。年金も入ってくるんですね。こんなことで使っている所はないんですよ普通は。先ほど言ったように製造品出荷額と同じように、農業の出荷額とか生産額とかでやっていかないと、RESAS のマップを見てもそういう指標になっていないんですよ。農業総収入は、一つひとつチェックしていかないと駄目なのではないのかなと思います。もう 1 点は、先ほど会長が、会津美里町は堅実な数字を書いているとありましたが、逆を言いますと、この指標の目標値を見ていると伸びがないんですよ、大した。農業にしても商工業にしても。観光に関しては一切分かりません、数字なんか。担当課に聞いても実際は分かりません。はっきり言って。本来、総合計画というのは 10 年後の町の道しるべな訳です。であれば、ワクワクするものがなかったら、私はまずいのかなと。堅実なものも確かかもしれませんが、堅実ということは逆を言うとこのまま行けば衰退ですから。目標値がある程度高いことで始めてどういうことを取り組まなければならないのか、あるいは農業で 1 ターンで人を引っ張ってこようとか、これをしようとかということをお皆さん方が私は思うのかなと思います。堅実な数字を並べていくのであれば、それは大した何も取り組まなくてもそれなりの数字になってしまいます。それでは、まるごといいね、には絶対にならないと思います。多少きつなくても目指す所の数字というのはきちっとするべき。前回にも申し上げましたが、うちの町は何で勝負するのかがはっきりしていないというのが最大の問題だと思っています。これで見たら面白かったのが、南会津町ですかね。社会動態が数年間で半分になっている。1 ターンで農業をやりたい人達を面接して住居も押さえて、組合員の方達に作り方を教えて、移住してきた。併せて林業、南会津町の幼稚園とか庁舎もそうです。それを地元の生産会社や木材関係が NPO 法人を組んで、あの庁舎を作ったんです。今、本町でも去年まで子ども達が産まれた時の木のおもちゃは南会津で作られているんです。東京にも出しているんです。ですから、堅実なものもいいんですが、堅実のまま行ったら間違いなく衰退です。であ

れば、目標値を農業でも商工業でも何でもいいんですが、そういうのを持って、そのためには何に取り組まなければいけないのかということをお皆さんだけではありませんが、我々一般町民もそうですが、やっけて行かなければいけないと。そこまでもっていったて始めて総合計画なのかなと思います。でなければ、単なる数字だけ今の数字をちょっと上乘せみたいな感覚では、残りの5年間作ってほしくないなと思います。2点目は要望になります。

(事務局) RESAS 自体、統計データを用いておりますので、他の市町村との比較が地理的要件や人口規模などもありますので、一概には同規模市町村の比較は難しいかもしれませんが、他市町村との比較分析としての一つのツールとして使えるものと考えておりますので、それも含めて強み、弱み、さらに将来の推移の見込みの中から、他市町村と比較して会津美里町が突出して何か施策するものを一つでも抽出できるように取り組んでいる所であります。現在、分析途中でありますので、これが会津美里町の事業として構築できるかははっきり申し上げられませんが、一つでも何か突破口が見えるような形で活用している所でございます。もう1点の目標値の設定に対するご意見ですが、数値としては現実的な数値で書かせていただいておりますが、新たな取り組みとして、経営戦略会議において、本町にとって何が必要な施策なのかについて内部協議を本格化させまして、より目標値を大幅に上回るような施策が構築できるものと考えております。あくまでも目標数値は現実的な数値になるかと思いますが、少しでも達成する努力を惜しまずに取り組んでおりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

(委員) 個別施策の数字が良くなるには、別枠で人口減少対策に取り組んでも良くなるはずがないんです。個別施策の数字が良くなる限りは。南会津の話をおさせていただきましたが、社会動態が半減して意図的に取り組んでいるんです。政策として、企業が来なければ、町で仕事を創るしかない。企業が来ないというのは堅実な考えです。本町においても来るとは思えないです。はっきり言って。そうであれば仕事を創るしかないんです。そのためには何が必要かを考えていくのが皆さんの仕事ではないのでしょうか。結果として、人口減少にも関与してくる。何でもかんでも良くなるなんてことはないんですよ。何か取り組んでいるうちに必然的に間接的に良くなってくるとか。その辺がないんだよね。まるごとなんかね、結果でなければいいものであって、これだというものを作っていかないと、いつまで経っても平均点を上げていきましょうということになる。それはそれでいいと思ひますが、これでは子どもはこの町には住みませんよ。はっきり言って。

(事務局) 貴重なご意見として受け止めまして、内部会議に伝えていきたいと思ひます。

(委員) 農業振興ですが、これから耕作放棄地が増々多くなると思ひます。農業者が高齢化して農業が続けられないという方が沢山出てくると思ひます。町では、耕作放棄地が増えないような対策を講じていただきたいと思ひます。

(事務局) 只今のご意見は、本町におきましても重要な課題と捉えております。耕作放棄地が増えてきますと、それに付随して有害鳥獣の発生が多くなっております。現実的に猪による農作物への被害も増えており、農業収入にも大きく影響する問題でもありますので、担当課ではその辺を踏まえて取り組んでいる所です。

5 閉 会(省略)

以上、開催記録として報告します。